

symposium program

東アジア冶金史学の開拓



12:30 開場

13:00 開始

SESSION1 土製鑄型研究

蘇栄誉 (中国科学院自然科学史研究所)
「塊范法と商周青銅器生産の構成」

苟歆 (北京大学芸術学院)
「侯馬銅器の外范制作工藝研究」

三船温尚 (富山大学)
「3D計測データ解析による古代中国青銅器の原型と鑄型の製作技法検討」

長柄毅一 (富山大学)
「鑄型通気度と鑄造欠陥の関係について-鑄造シミュレーションによる欠陥予測」

村田泰輔・丹羽崇史 (奈良文化財研究所)
「日本所在中国青銅器・銭貨鑄型に関するX線CT調査」

SESSION2 冶金関連遺物研究

森貴教 (新潟大学)
「砥石組成からみた手工業生産-冶金・鍛冶関連遺跡出土砥石の検討」

丹羽崇史 (奈良文化財研究所)
「冶金関連遺物からみた東アジア熔銅技術の変遷」

DISCUSSION

17:00 終了予定

通訳あり 対面・オンライン併用

人類の冶金の歴史を考古学・文化財科学双方から検討を行う「冶金史学」がメジャーな研究分野として確立している中国ではとくに近年、土製鑄型に関する進展が著しい。一方、日本においては砥石や羽口といった冶金関連遺物の研究に蓄積があり、土製鑄型についても新たな研究手法が試みられている。本シンポジウムでは日中双方の研究蓄積を共有にもとづく「東アジア冶金史学」の開拓を視野に入れ、考古学・文化財科学・実験的手法による研究成果を紹介する。

2024

土曜日

6.8

申込・問い合わせ先

6月5日締め切り

①氏名 ②所属 ③連絡先 ④会場参加またはオンライン参加を記入の上、下記メールアドレスに申し込みください。

mail:niwa-t65☆nich.go.jp
(☆を@に変換して送ってください。)

平城宮跡資料館 講堂

近鉄大和西大寺駅 から徒歩10分

奈良文化財研究所 丹羽崇史

主催：科学研究費JP20H01365

課題名「土製鑄型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」

代表者：丹羽崇史 2020-2024年度 研究種目：基盤研究(B)

科研費
KAKENHI

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

ポスターデザイン：寶田海奈

写真：芦屋釜の里にて丹羽崇史撮影